

No. 1

発行 昭和43年10月1日

学 園 だ よ り

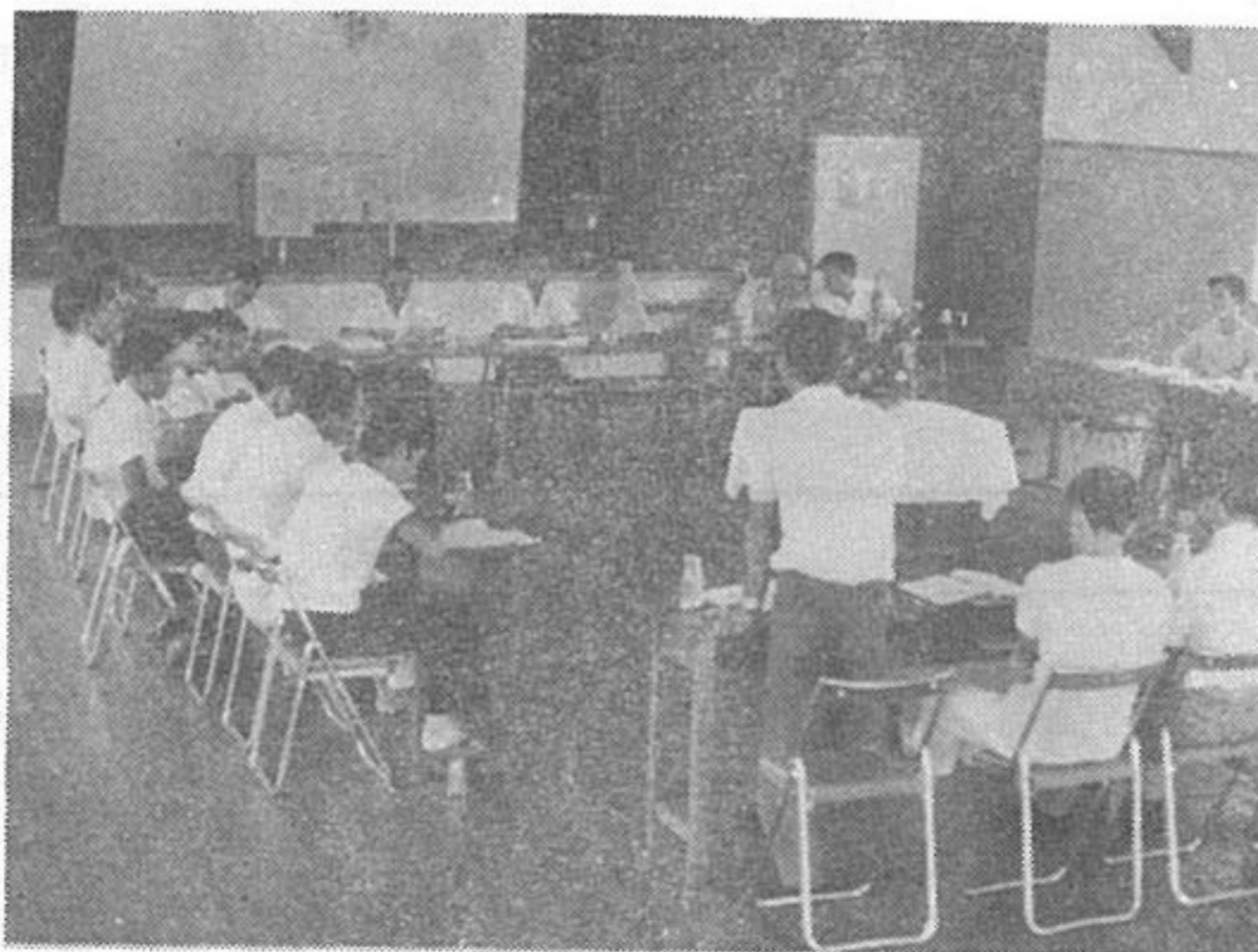
財団法人 中国四国酪農大学校



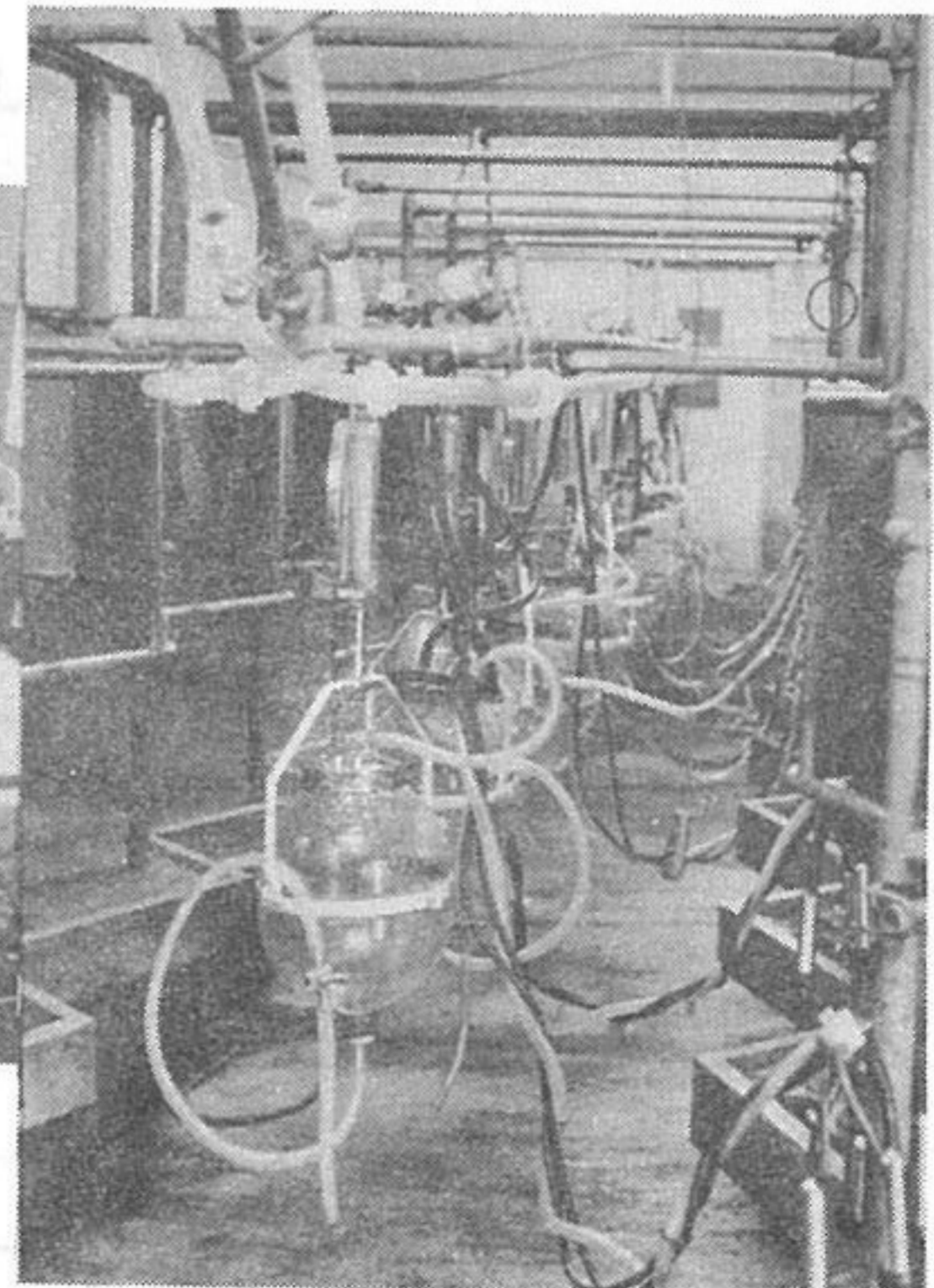
校 門



酪農大学校第二牧場（三木原）



第3期生の集合研修会
（S43.7.14.15日）



改装されたミルクングパーラー

あ い さ つ

近年国民の食生活の改善に伴って我国の酪農は量的にも質的にも飛躍的發展が要請され、これに対応するため生産基盤の造成・資金準備の充実・流通機構の改善はもとより飼料確保対策と併せて経営の合理化を図るために生産性の向上が重要視されて参りました。

本校は創設以来早くも4年の星霜をみ年々卒業生諸君を実社会に送り出して来ましたが、諸君はそれぞれ第1線において経営規模の拡大、生産技術の向上に活躍され、酪農振興のためにその成果を発揮されておられる事は御同慶の至りであります。

爾来学校としましては教課の充実と施設整備の拡充を図りつゝ牧場経営の質的改善を行い健全なる酪農後継者の養成に鋭意努力しておりますが、さらに酪農経営の安定近代化に即応した教育を実行いたしたい所存でございます。

ところで従来学校と卒業生諸君との連絡はとかく疎遠になり勝ちで同じ酪農を志す者として一抹の淋しさを禁じ得なかつたことと思ひます。

当校卒業生も県立当時より通算して今や百数十名に垂々とする多数に成長し同窓会設立の機運も芽生えて来ております。これにさきがけさゝやかではありますが「学園だより」を発行することになりましたことは誠に喜ばしくこれが学校と卒業生との連絡にそして酪農同志の結合の縛としていさゝかでもお役に立てば幸いと考へます。

1. 学校の概要

本校は中国四国9県に兵庫県を加えた10県で組織した財団法人で昭和40年11月設立をみた。

主要施設

1) 土地 総面積 11132 ha 建物敷地 506 ha 草地その他 10626 ha

第1牧場(本校) 2192 ha 第2牧場(三木ヶ原) 8940 ha

2) 建物

本館	1棟	職員公舎	12棟	飼料庫	1棟
講堂	1 "	独身寮	1 "	燃料庫	4 "
学生寮	3 "	ルーズバン牛舎	3 "	農機具庫	4 "
自治室舎監室	1 "	(ミルクパーラー・附属施設を含む)		乾燥舎	1 "
食堂	1 "	スタンション牛舎	1 "	診療, 実験, 薬品, 標本室	1 "
倉庫	1 "	堆肥舎	1 "	育成牛舎	1 "
物干場	2 "	避難舎	2 "	計	42 "

教 育 部 門

1. 教育方針

- ① 酪農経営の近代化に即応して広い視野に
たつて酪農全般に関する教課の充実
- ② 牧場実習並びに科学的実験調査をもとに
高度経営技術の浸透
- ③ 学生は寮生活を通じて確固たる信念と研
究心を養い敬愛と協調によって人格の練磨

就学方法

本校は2ヶ年修業制とする。

- 登校 第1期4月より9月まで6ヶ月，第
2期翌年10月より3月まで6ヶ月
- 自営 第1期就学後10月より翌年9月ま
で1ヶ年間自営実習により経営者と
しての実践能力を養う。

2. 教課編成

	前 期	後 期	備 考
講 義	23科目 384時間	28科目 502時間	校外講師は岡大，鳥大，広大の教官を委嘱の外特別講師とし て学術経験を依頼，校内講師は教科の外実務について指導す る。 (実習項目)
実 習	8項目 580時間	10項目 425時間	牧場実習，乳質検査，気象観測，加工飼料実習，人工授精 実習，畜産製造，経営診断，農業機械実習，寮査実習，農業 土木

3. 昭和42，43年度学生応募者数及合格者数一覽

区 分 名	昭和42年度(3期生)		昭和43年度(4期生)		区 分 名	昭和42年度(3期生)		昭和43年度(4期生)	
	応募者数	合格者数	応募者数	合格者数		応募者数	合格者数	応募者数	合格者数
兵庫	8	2	12	4	愛媛	5(1)	4(1)	3	1
鳥取	6(1)	5(1)	2(1)	1(1)	高知	2	2	5	2
島根	5(1)	4(1)	8(2)	6(1)	徳島			1	1
岡山	44	18	46(4)	22(3)	計	87(5)	40(3)	97(7)	45(5)
広島	12(2)	3	8	3					
山口	3	1	4	2					
香川	2	1	8	3					

※ () は女子を示す。

教育の近況について

諸君の学んだ学窓は早くも7星霜の間機構の改正，教課の充実等の幾多，変遷のうちに，県立4回，財団2回の卒業生を斯界に送り，今4期生が前期6ヶ月の学習を終り10月から3期生の後期が家庭実習（自主研修）を終て帰校し勉学に励んでおります。

教育部門に於ては本校設立の主旨に則って科学的理論と経営技術に対する実践的教育を行なうために全力を注いでおります。

- 応募学生も年々その数を増し，昭和43年度は97名の外遠く近畿，関東方面より20数名の応募者がありました。昭和44年度については既に募集要領を各方面に発送し殆らつたる学生を募集いたしております。
- 教科については別表の通り科目の充実を図る一方学生諸君の学習の便をはかるため図書室を充実し随時自習が出来るようにしました。
- また経営の実態，飼養管理，飼料作物の栽培，草地の維持管理，農業機械等は唯教室で教えるだけでなく，その効果をあげるため極力現地に於て指導いたしております。
つぎに実習は，牧場実習はもちろん，人工授精，農業機械，乳質検査，畜産製造，寝査実習，気象観測，農業土木実習等を計画的に実施し班長を中心とした実習体勢で興味を持ち責任のある実習が出来るように努めております。
- 研修については，水田酪農，山地酪農班に分けて肌で感じ眼でみ，耳で聞き，手で筆記を行なって経営の実態を把握せしめる研修をいたして居ります。
- 自主研修期の学生に対しては極力研修地を選定し，実習効果の發揮されるように指導し北は北海道から南は九州の試験研究機関，牧場，先進地の酪農家に斡旋すると共に家庭実習（自主研修期間中のレポート及び経営診断の結果を調し，後期就学前に集合研修会を開催してお互が意見を発表し，諸先生方のヒヤリングを受けることにしています。
- 寮生活については規律ある行動と積極的に信念に則って協調性を養い人格の練磨に努めよりよき環境のもとに安心して学業に励むよう心掛けています。
- 課外活動として牧草展示圃を設け牧草の生育調査，特性調査及び混播牧草の収量調査等を学生自からが行ないお互が研究し合っております。
- 本年は5月から9月上旬まで三木原寮を使用し半数の学生が交代で起居した。
- 本校と牧場間の輸送と課外活動を円滑にするためマイクロバスを購入しました。

最後に学園を愛し広大な牧野と人情さわやかな蒜山で学生諸君が安心して勉学ができ学業に興味と信念を自らが学び将来日本において否地方に於て酪農界の中堅となって戴きたいことを念じてやみません。

経 営 部 の 現 況

県立から法人組織に改組され大きく変わったことは、経営部の新設でしょう。地方競馬全国協会の補助により、乳牛の購入、牛舎並びに附属施設の新設、草地、家畜の管理機械の整備等を行い従来からあった三木ヶ原の県営乳牛育成場を併合して新に三牧場を開設したのであります。

その目的とするところは学生実習の場としながら牧場自体も企業的な経営を実践することであり
ます。

教育組織の中でこうした経営を行うことには様々の問題もありませんが、それは別として大山を
背影に白雲の下緑の草地に遊ぶ牛群の姿は、あくせくした此の世のわずらわしさを忘れさせる実に
長閑な風景で蒜山高原を訪れる人々をたつぷり楽しませています。

1. 経営部の機構

9月30日現在

名 称	人員	乳 牛			耕 地		所 在 地	
		成 牛	育成牛	子牛	草 地	畑		
経 営 部 長	第 1 牧 場	3	H 28	1	3	ha 10.35	ha 4.17	本 校 内
	第 2 牧 場 (第1牛舎・第2牛舎)	6	J 73 H 11	10 1	6 2	58.53	1.7	三 木 ヶ 原
	衛 生 課	1						
計		11				68.88	5.87	

最初三牧場でしたが本年4月から二牧場と一課に改組しました。第一牧場はホルスタイン種、第
二牧場は三木ヶ原でジャージー種による放牧経営をそれぞれ行うこととし、更に県道を境に第一、
第二牛舎に分け第一牛舎は搾乳専門に第二牛舎は育成牛、乾乳牛を主体に管理をしています。

2. 牛舎並びに附帯施設

何れもルースハウジングシステムによる管理方式で搾乳はパイプライン方式でヘリンボン型3
頭単列、4頭複列、8頭複列とそれぞれ異っています。いづれもこれからの大型酪農を目指して
学ぶ学生の実習のための施設といえるでしょう。

3. 農 機 具

大型酪農を学ぶため圃場の機械化は進んでおり、大型トラクター5台を中心に草地並びに畑管理のための機械が整備されており、これはこの学校の誇る大きな特色と思います。

主 要 農 機 具

大型トラクター	5	カルチベーター	1
ブルドーザ	1	カルチパッカー	2
ジープ	1	大型ローラー	2
トラック	2	ウイダー	1
農民車	2	尿ポンプ	3
トレーラー(ダンプ)	4	モア	5
“(普通)	1	ヘイコンデシヨナー	2
マニアローダー	2	ワツフラ	2
マニアスプレッター	2	ヘイレーキ	3
ラ・イムソワー	2	ホーレージハーベスター	1
ブラウ	2	ヘイベーラー	2
デスクハロー	2	ベイルスローワー	1
ツースハロー	1	バツクレーキ	1
バスチャーハロー	3	フイードミキサー	1
ブロードキヤスター	3	ベルトコンベアー	3
コーンプランター	1	火力乾草調製施設	1式
リツヂャー	1		

4. 草地及び飼料畑

草地6.9ha、飼料畑6haが乳牛の飼料生産基盤になっています。

放牧草地はha当り45tを目標に努力しています。そのため昨年度チョツパーポンプを購入して糞尿の積極的な利用を図っています。

草地の更新は極力さけ、追播により収量の維持向上に努力しています。畑作には、トモロコシ、カブ及びイタリヤンを取入れた。何れも晩秋及至冬期用の飼料としています。

以上のように、経営部はこれからまだまだ内容の充実を図る必要があり一同懸命の努力をしています。

先達諸氏の一層の御指導と御後援をお願いして経営部の紹介を終ります。

後輩はかく学ぶ

第4期生 遠藤裕史

我々は昭和43年4月5日、大きな夢と希望をいだいて大学生として入学しました。

入学してみると、東は兵庫県、西は山口県に四国を加えた10県から集まった45名(内女子5名)。専攻科程も畜産科あり、普通科あり、商業科、機械科あり、化学科等々。

志を同じくした者同志ではあっても、よく性格もわからないままに、寮生活が始まったのであります。

高校時代には、色々な面で気楽に、両親のもとから通学していたことを思い出し、我々にとって、大学は自由で学理の探究ができる場所を期待していたところが、本校は他の大学と異り、後継者教育という教課内容で、規律は厳しく、人格の養成と意欲的慣性にはとまどいました。

時には学生間でトラブルを起したこともありますが、皆でこれを解決するために努力し、或は、利己主義の通らない団体生活を自主的にやっているうちに、寮生活にも慣れて、一つのカラーというようなものができてきました。

巾広い酪農に関する基礎的な学理を雄大な草地で機動力を駆使しての作業体系は、我々の心をいやが上にも盛りたて、土地を活用する酪農の経営技術を学ぶにつれ、ある時は、酪農経営の難かしさに頭を傾むけ、あるときは、汗にまみれて飼料生産の尊さを知らされるうちに、人がやれることは、自分でもやれないことはないとの自信と自からが求めて研究する必要性を感じ、歯をくいしばって、先輩、諸兄をしのびつゝ頑張り、時にはお互が親睦を深めるために、ソフトボールやバレーボールで意気統合する一方、2、3の課題をテーマにしては、討論会等を開催して、より高い理想を求め強い信念を養うことに努めたのであります。そして酪農後継者として恥じない行動を取ることを約しつつ、第1学期の課程を終って、今后一年間自主研修期に入りますが、将来我々に課せられた使命に向って精いっぱい努力したいと思います。先生方はもちろん、先輩各位の御支援御指導をお願いして止みません。

学 生 募 集 要 領

1. 募 集 人 員 40名

2. 受 験 資 格

中国地方及び四国地方の各県及び兵庫県に居住し又は卒業後居住することの確実なものであつて次の一に該当しなければならない。(男女別を問わない)

- ① 高等学校を卒業したもの
- ② 高等学校を卒業をした者と同等以上の学力があると校長が認めたもの

3. 受 験 手 続

1) 願書受付期日 昭和44年1月5日～2月20日

2) 提出書類 (必ず一括して送付すること)

① 入学願 所定の様式によること

② 履 歴 書 1通 自筆のもの

③ 戸籍抄本, 及び住民票各1通

④ 身体検査書 保健所で検査を受けたもの

⑤ 最終学校の卒業又は卒業見込の証明書及び成績証明書

⑥ 写真(上半身, 脱帽の名刺型で最近3ヶ月以内に撮影したもの)2枚のうち1枚は入学願書に貼布, 1枚は別封し裏面に氏名, 年令(生年月日)撮影年月日を記入のこと。

⑦ 受験料1,000円を添えること(取扱い上現金または為替)

3) 送 付 先

岡山県真庭郡川上村西茅部632番地

中国四国酪農大学校長あて提出すること

4) 受 験 手 続

入学願及履歴書など関係書類を一括して願書受付期日までに本校に必着するよう出身県畜産課長を経由して提出すること。

4. 入 学 試 験

1 試 験 期 日 昭和44年3月5, 6日

学 生 募 集 要 領

1. 募 集 人 員 40名

2. 受 験 資 格

中国地方及び四国地方の各県及び兵庫県に居住し又は卒業後居住することの確実なものであつて次の一に該当しなければならない。(男女別を問わない)

- ① 高等学校を卒業したもの
- ② 高等学校を卒業をした者と同等以上の学力があると校長が認めたもの

3. 受 験 手 続

1) 願書受付期日 昭和44年1月5日～2月20日

2) 提出書類 (必ず一括して送付すること)

- ① 入学願 所定の様式によること
- ② 履 歴 書 1通 自筆のもの
- ③ 戸籍抄本, 及び住民票各1通
- ④ 身体検査書 保健所で検査を受けたもの
- ⑤ 最終学校の卒業又は卒業見込の証明書及び成績証明書
- ⑥ 写真(上半身, 脱帽の名刺型で最近3ヶ月以内に撮影したもの)2枚のうち1枚は入学願書に貼布, 1枚は別封し裏面に氏名, 年令(生年月日)撮影年月日を記入のこと。
- ⑦ 受験料1,000円を添えること(取扱い上現金または為替)

3) 送 付 先

岡山県真庭郡川上村西茅部632番地

中国四国酪農大学校長あて提出すること

4) 受 験 手 続

入学願及履歴書など関係書類を一括して願書受付期日までに本校に必着するよう出身県畜産課長を経由して提出すること。

4. 入 学 試 験

1 試 験 期 日 昭和44年3月5, 6日

2. 試験場所 岡山県真庭郡川上村西茅部632 財団法人 中国四国酪農大学校

3. 選考方法 選考は学力、人物及び身体について行なう。

(1) 学力検査 数学、国語、社会学

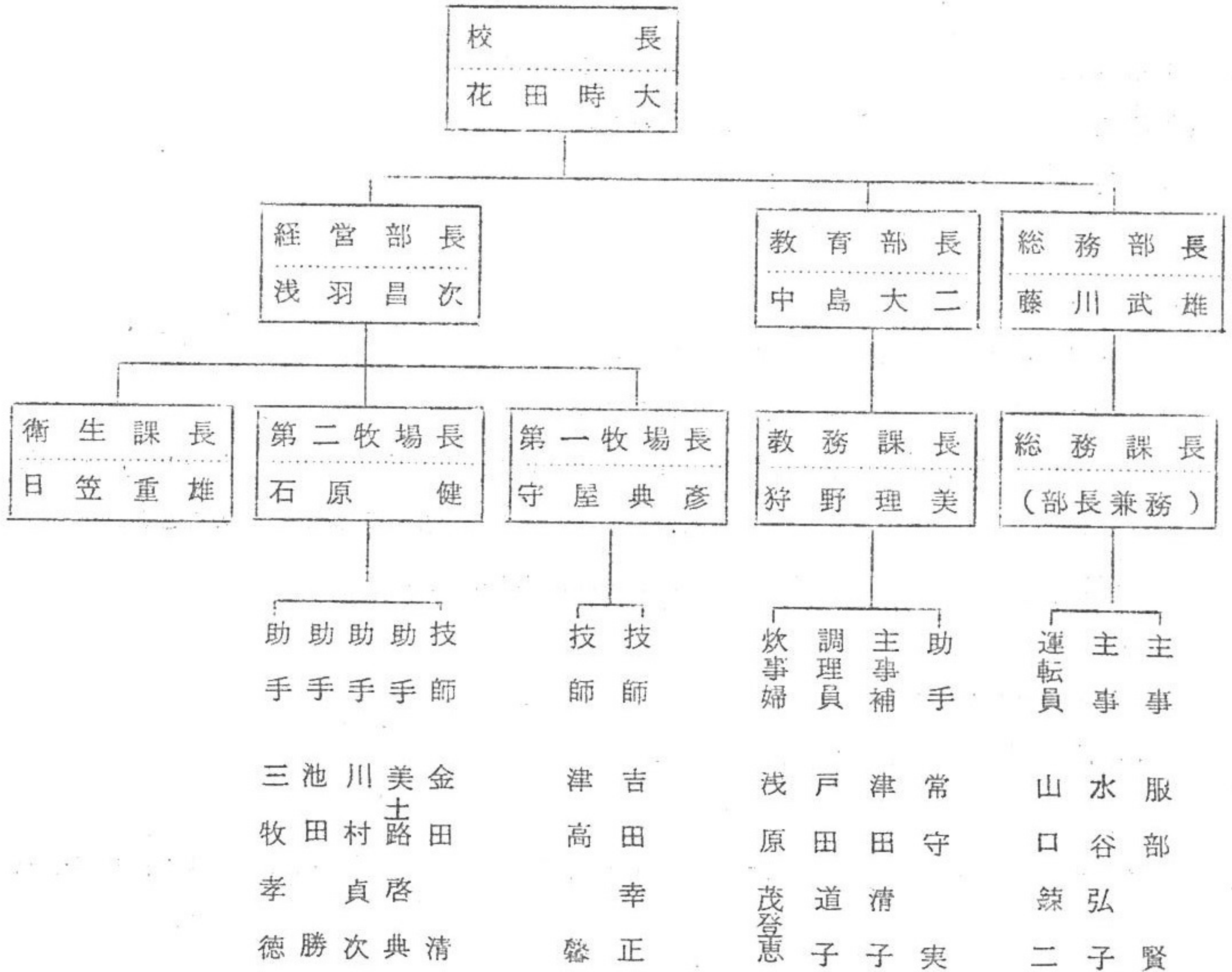
(2) 口頭試問 一般常識、人物考査

(3) 身体検査

5. 入学期日 昭和44年4月上旬予定

機構並びに配属職員

(昭和43年10月1日現在)



編 集 後 記

- 卒業生の皆さん元気で日夜酪農に励んでおられることと思います。

当校は2年制であっても学期の編成上各期学生はいつもすれちがい。お互いに面識のないまま卒業してしまふ。

卒業しても忙しい業務を持っては、めったに学校を訪れることも出来ない。何とか、卒業生同志、又卒業生と学校の連絡を密にしたいもの。それが学園だより発行の動機です。

- 編集にあたっては、学校の近況、卒業生や職員の執筆記事、簡単な技術的解説等々、もり込みたいことばかり、然し紙面の都合もあり創刊号は学校の近況、在学生の原稿、旧職員及卒業生名簿等に止めざるを得なくなった。

- 発行も定期刊行としたいが、予算や労力の関係もあるので差し当り不定期の見込み、今後の発展のため、卒業生諸君の原稿も大いに登載したい。又感想や意見もどしどし寄せて欲しいと思います。そしてこの学園だよりをお互いの連絡機関誌として有効なものに育てたいものです。御協力下さい。

(10月1日記係より)